てっぺんの葉っぱ

心の声を伝えよう

3年　S・Oさん

わたしは、マチににています。マチのように友だちの言う通りに行動して、お母さんとのやくそくをやぶってしまったことを思い出しました。公園で友だちと遊ぶ時に、お母さんに午後五時に帰ってくるように言われていました。けれど、友だちにまだ遊びたいねと言われ、わたしはことわれず、五時をすぎても遊んでしまいました。せっかく友だちにさそわれたのに、ことわったらその場の空気がわるくなってしまうと思ったのです。五時よりおそく帰った時は、お母さんとのやくそくをやぶり、心に重い石がのったような気持ちになりました。マチも同じ思いをしていたのかな。

わたしは、この本を読んで心にのこったことが二つあります。一つ目は、下山田先生に水をかけてしまった後からマチがかわったことです。今までは、ユリアちゃんに言われた通りに行動していました。しかし、本当にそれがよいことなのかを「自分」で考えて行動するようにかわりました。

二つ目は、マチがま女ババのむすめさんと話した時に、何度でもチャレンジして、同じまちがいをしないようにしたらよいと気づいたことです。

この本を読んで、わたしも自分の気持ちを友だちに伝えるチャレンジを何度でもしてみようと思いました。友だちの言う通りにしていたら、上と下のかんけいになって、本当の友だちではないと思いました。本当の友だちだったら、きっとわたしの思いも聞いてくれるだろうし、おたがいの気持ちも言い合えると思います。マチも自分の気持ちが言えるようになってからは、ユリアちゃんともっとなかよくなって、友だちのかんけいが深まったように感じました。わたしもマチのようにてっぺんの葉っぱの力を使わなくても、ゆう気を出して自分の思いを伝えられる人になりたいです。